



どんどんごみを捨てていくと、将来、埋め立て地が不足するだけでなく、膨大なごみ処理費用が必要になります。さらには、地球上の資源が無くなる日が来るかも知れません。できるだけごみを出さないことが大切だとよく耳にしますが、具体的にはどうしたらいいのでしょうか？

今月は、西区内でごみの減量に取り組んでいる人たちの活動を参考に、家庭や地域でできることを考えてみましょう。

ごみ減量大作戦！

五カ月で生ごみの90%を減量



西区では、環境に優しいまちづくりを目指し、区民の皆さんと共に「ごみダイエクト推進事業」を展開しています。毎年モデル地区を指定して、地域で行われるごみ減量活動を支援。平成十一年の琴似仲よし町内会から始まったこの事業は、その後も八軒東和、山の手第四町内会と広がっていき

ました。四年目の今年は、発寒稲荷町内会の皆さんが、春から活動しています。発寒稲荷町内会の取り組みは、家庭から出る生ごみの量を減らそうというもの。実際に、各家庭で生ごみ処理機を使って、ごみの減量に挑戦しています。処理機には、家電メーカーで販売している電動式のもの、段ボール箱に土壌改良剤を入れ、そこに生ごみを投入

する簡易な方式のものがあります。同町内会で、中心となって活動する松浦節子さんは「うちは、段ボール箱方式を実践しています。貝殻などの硬いもの以外は、ほとんどこれで処理できます」と話します。生ごみは分解されてたい肥になり、庭の木や花に利用されています。

松浦さん宅では、五カ月間で五十四キの生ごみを減量しました。ご主人と二人で一月約十一キの減量です。家庭から出る生ごみ量の平均は、一カ月当たり、二人世帯で約十二キです（一人約六キ）。このうちの十一キですから、約九割もの減量に成功したわけです。

（※生ごみ処理機については、次ページの西清掃事務所にお問い合わせください）



率先してごみ減量を進める松浦さん



段ボール箱を利用して生ごみを減量